

3 インドネシア

局ノ擔任シアル業務ハ逐次土侯ニ移譲ス
三、其ノ他ノ地域

昭和18年6月26日 大本營政府連絡會議諒解
804

「原住民政治參與ニ關スル件」

原住民政治參與ニ關スル件
一、「ジャワ」

1. 成ルヘク速ニ中央部及各州等ニ原住民ヲ以テスル諮詢
機關ヲ設ク

州長官以下ノ行政官ニ有爲ノ原住民ヲ任用ス
又中央行政機關ニ原住民ノ參與（假稱）ヲ設ク

2. 概ネ昭和十八年末ヲ目標トシテ中央行政機關ノ内民生
ニ關係深キ部門ノ長官以下ニ原住民ヲ任用スルト共ニ
爾後逐次其ノ範圍ヲ擴張ス

805
昭和19年9月7日

三、華僑ニ對シテハ差當リ主トシテ經濟上ノ分野ニ於テ之カ
活用ヲ圖リ其ノ政治參與ニ關シテハ一般原住民ノ政治參
與ノ進展ニ伴ヒ各地ノ特性ニ應スル如ク逐次措置スルモ
ノトス

「東印度獨立」に関する小磯声明

付記一 作成日不明、政務局第一課作成

次其ノ行政ヲ原住民ニ擔任セシムル如ク指導ス
又中央及州ノ諮詢機關ハ將來更ニ之カ機能ノ向上ヲ考
慮ス

3. 土侯ニ對シテハ概ネ現狀ヲ維持スルモ現ニ土侯州事務

政務課作成

二 昭和十九年八月五日付、大東亜省南方事務局

「インドネシア」獨立許與ニ關スル件

アル。

三 昭和十九年八月二十八日付、政務局第一課作成

〔東印度獨立施策ニ關スル件（中間報告）〕

四 昭和十九年八月二十九日付、大東亜省南方事務局政務課作成

「東印度獨立施策ニ關スル件」

五 昭和十九年九月一日付、政務局第一課作成

〔東印度獨立施策ニ關スル件（關係省主務者案）〕

六 昭和十九年九月四日、最高戦争指導会議構成員会合

最高戦争指導会議構成員会合における東印度独立問題に関する討議

帝國ハ昨年、原住民ノ念願ニ基ツキ、ソノ政治參與ニ關スル措置ヲ執ツテ參ツタノテアルカ、コノ間、コレラ各地ノ原住民ハ、克ク帝國ノ眞意ヲ解シ、終始一貫、大東亜戦争完遂ノタメ、多大ノ努力ヲ續ケテ參ツタノテアツテ、現地軍政ニ對スル協力亦誠ニ見ルヘキモノカアル。コノ實狀ニ鑑ミ、帝國ハ東印度永遠ノ福祉ヲ確保スルタメ、將來ソノ獨立ヲ認メントスルモノナルコトヲ、茲ニ聲明スルモノテ

り抜粹。

（付記）

爪哇等ノ獨立許與聲明ニ關スル緊急考察

大東亜戦争ハ今ヤ三ヶ年ニ垂ントシ、敵米英ハ我カ占領地區資源ノ利用ニ依ル國防充實ノ完成ニ先チ、決戦ヲ遂ケントシテ反攻ヲ急キ戦局ハ苛烈ヲ極メツツアリ、此ノ時ニ當リ南方占領地區ノ資源ヲ戰爭遂行ニ利用シテ遺剩^(マダ)ナカラシムルノ緊要ナルハ勿論ナルカ、之カ爲メニハ先ツ占領地治安ノ確保ト原地住民ノ人心收攬トヲ得スンハアルヘカラス南方各占領地ヲ通觀スルニ一昨年占領ノ當時ニ於テハ一部特殊ノ地方ヲ除イテハ、原住民ハ概ネ皇軍進駐ヲ喜ヒ迎ヘ、軍政ニ協力セルモ、期間ノ經過ニ從ヒ、衣食ノ不足ニ依ル生活ノ困難ニ當面シ、漸次幻滅ヲ感スル者ヲ增加シツツアルハ疑フヘカラス、特ニ占領地人口ノ半數ヲ占ムル爪哇ニテハ、治安ハ充分ニ保タレ、原住民ハ欣然トシテ軍政ニ

編注 本文書は第八十五回帝国議会における小磯首相演説よ

協力シ、其ノ豊富ナル資源ヲ以テ我カ兵站基地タルノ責ヲ示サントシツツアリタルカ、一昨年末ヨリ昨年ニ亘レル氣候不順ノ結果起レル農作不良ト戰爭遂行ノ必要ヨリスル食料供出ニ伴フ食料不足竝ニ衣料不足ニ依ル不安ハ一方政治參與ノ許與、民力結集運動、防衛義勇軍、警防團及ヒ青年團等ニ依ル軍政ノ滲透ト逆作用ノ形勢ニアリ

中央及ヒ地方ヲ通スル食料増産運動ハ良好ナル成績ヲ擧ケ、昭和十九年内ニ相當ノ増産ヲ見ルハ明白ナルモ、戰爭ノ必要ヨリ生スル現在及將來ノ供出ヲ考慮スル時、必スシモ民食緩和ヲ期待スルヲ得ス、他方衣糧モ亦此所一、二年間ハ愈々益々逼迫スルモノト見サルヘカラス、開戰來、サラデダニ不足勝チナル生活ヲ愈々甚シカラシムヘク、之ニ對スル處置如何ハ今後ノ治安ヲ制約スル重大關鍵トナリ居レリ現在ノ戰爭ハ單ニ日本ノミノ戰爭ニ非ス、大東亞カ米英ノ桎梏ヲ脱スル協同戰ニシテ、此ノ戰爭ニ勝抜ク爲メニハ凡ユル犠牲ヲ拂ハサルヘカラストスル原住民ニ對スル我カ指導方針ハ最近發足セル爪哇奉公會ニ依リ、更ニ一層強行セラレツツアリトハ謂ヘ單ニ之ノミヲ以テシテハ現在ノ爪哇民衆ニ對シ尙ホ益々增加セントスル生活ノ不自由ヲ忍ンテ

戰爭ニ協力セシメ得ヘキヤ疑ナキ能ハス

現在爪哇ニ於ケル民衆指導者、智識階級及ヒ青年層カ進ンテ我カ軍政ニ協力シツツアル所以ノモノハ此ノ戰爭ハ單ニ日本ノミノ戰爭ニ非ス、我等「インドネシア」民族モ此ノ勝利ニ依リテ解放セラルルナリトスル希望ヲ不言不語ノ間ニ信シツツアルカ爲ナリ、然レトモ此ノ希望ハ未タ日本ヨリ公然裏書セラレタルモノニアラス又彼等ヨリ見レハ昨年六月東京ニ於テ東條首相ヨリ政治參與許可ヲ聲明セラレ、十月中旬參議院等ノ開設ヲ見タルモ、現實ハ希望ヨリ甚タシク遠カリ居リ、而モ、時日ノ經過ニ從ヒ日本ハ緬甸及ヒ比島ト爪哇トヲ差別待遇シ遂ニ馬來半島ト共ニ直轄領トスルナキヤノ疑念ヲ增加セシムルノ傾向アリ、戰爭ニ因ル生活ノ逼迫增加ノ現象益々加ハリ苛烈ナル戰鬪ハ爪哇等ニモ及ハントスル此ノ際此等ノ傾向ヲ緩和シ更ニ一層軍政ニ協力セシムル爲メニ適切ナル處置ヲ採ルノ極メテ喫緊ナルヲ感ス

然リ而シテ之カ對策如何ヲ考フルニ、舊蘭印時代ニアリテハ爪哇ト外領又外領各個ノ事情必スシモ同シカラス、其ノ間ニ在リテ人口ノ大部分ハ爪哇ニ住シ、爪哇ノミハ地歴的

四 占領地への独立付与問題

關係ヨリ全島ノ文化平均シ、ソノ程度ハ南洋ニ於テハ極メテ優越ナル地位ヲ保留シ居レリ、住民ノ素質ニ就テハ戦爭前ニ於テハ兎角ノ批判アリタルモ教育ニ依リ充分向上セシメ得ルコト疑ナシ但シ從來政治的教育ヲ受クルコト極メテ少カリシニ爲メ、今直チニ獨立國タラシムルコトハ頗ル困難ナリト雖モ、之カ教育ニ相當ノ年月ヲ以テセハ我カ帝國ノ指導ノ下ニ立派ナル獨立國ヲ南洋ニ樹立セシムルコトヲ得ヘク、而シテ之コソ現在爪哇民衆ノ希望シテ止マサル所ナリ

五千萬ノ爪哇民衆ヲシテ尙ホ一層衣糧ノ缺乏ヲ忍ヒ窮屈ニ堪ヘテ食料ヲ供出シ全面的ニ軍政ニ協力セシムル爲メニハ、爪哇民衆ニ戰後將來準備教育成レル暁ニハ彼等ニ獨立ヲ許與スヘキコトヲ明白ニ表示シ、前途ニ輝ケル希望ヲ持タシメ、目前ノ困苦ヲ征服セシムルヲ最善策トナシ、此ノ他ニ途ナシト信ス、而モ其ノ聲明期ハ今日既ニ早カラサルヲ憾ム程ナルモ尙必シモ遲シトナサス、只時機ヲ失シテ臍ヲ噬ムノ悔ナキヲ要ス

民衆指導者等ニ於テハ單ニ爪哇ノミナラス舊蘭印ノ大部分、即チ、「インドネシア」民族ノ獨立ヲ主張スルモノ多ク、

之カ爲メ皇軍ノ南方攻略後、戰略ニ依リ生シタル舊蘭印ノ軍政區畫ニ對シ獨立ヲ阻止スルタメノ殊更ナル政策ナリト誤解セル者アリタル程ナリ、然レトモ彼等ノ所謂「インドネシア」ナル觀念ハ極メテ漠然タルモノニシテ、客觀的ニ諸般ノ事情ヲ檢討シタル後ニ生シタル結論ニ非ス、爪哇ト外領諸地方トヲ比較スレハ今日直チニ之ヲ政治的ニ同一ニ取扱ヒ得サルハ何人モ疑ハサル所ナリ、從テ將來爪哇ノ獨立ヲ許與スル場合ニ於テモ、外領ヲ如何ニ取扱フヘキヤハ其ノ時ノ現實的事情ニ依リ處理スルヲ適當トスヘク、今日ヨリ之ニ對シ如何ニスヘキヤヲ決定シ置カサルヲ得策トス將來、爪哇ニ獨立ヲ許與スルトスルモ、之カ實現ニハ先ツ民衆ノ教育ヲ行フヲ要ス、之ニハ少カラサル年限ヲ必要トシ此ノ準備期間ニ日本語ノ普及ハ全島ニ及ヒ馬來語ヲモ凌駕スルニ至ルヘク、同時ニ青少年ヲシテ日本精神ヲ持ツ南方ニ於ケル第二ノ日本民族タラシメ、事實上我カ指導下ノ有力ナル與國タルヲ得セシムヘシ

上述ノ趣旨實行ノ爲メ必要トスル事項ノ主ナルモノヲ左ニ

列舉ス

一、帝國政府ハ最近ノ機會ニ於テ左記ノ趣旨ヲ含ム聲明ヲ發

大東亞戰爭開始以來是二二年有八ヶ月、戰局ハ日ヲ追

ツテ緊迫シ、今ヤ苛烈ヲ極メツツアリ、世界制覇ノ野望ヲ企圖スル敵米英ヲ擊破シ、聖戰ノ目的ヲ完遂スル爲ニハ、一億同胞ノ遺憾ナキ奉仕ヲ必要トルハ勿論

ナルト同時ニ大東亞諸民族ノ協力ニ俟ツトコロ甚大ナルモノアリ、而シテ帝國政府ハ客年八月緬甸國ノ獨立、更ニ十月ニハ比律賓國ノ獨立ヲ承認シ、新進兩國ノ熱烈ナル抱負ニヨル協力ヲ見ツツアリ、他方舊蘭領印度地方ニ於テハ同シク十月、爪哇ヲ筆頭トシテ政治參與機關ヲ設置シ、皇軍占領地ニ於ケル軍政ニ對シ民衆ノ協力ヲ見ツツアリ

此間將ニ一ヶ年ニ近カラムトスル政治參與ノ實績ヲ視ルニ、爪哇等ノ地方ニ於ケル民衆ノ軍政協力ハ誠ニ良好ニシテ、之カ原由ハ發達セル現地住民ノ文化ニアリトイフヲ得ヘシ、之ニ依ツテ帝國政府ハ今後教育ヲ普及シ、諸般ノ準備成レル曉ニハ、此等地方ノ現住民モ亦獨立國ヲ樹立スル能力ヲ有スルニ至ルヘキヲ疑ハス、今後ノ軍政執行ニ當テハ作戰ト兩立スル限り、將ニ絞

三、將來獨立ヲ許與スヘキ地域
文化ノ程度、交通ノ發達、歴史、習俗及宗教等ヨリ觀テ之ヲ爪哇、「マヅラ」及「バリ」ニ限定シ、三島ヲ合シテ一國ヲ作ラシム

「スマトラ」、「ボルネオ」、「セレベス」、小「スンダ」列島、「モロッケン」群島及「ニュギニヤ」ハ一應之ヲ帝國領土トナシ、戰後相當ノ期間ヲ經テ、事情ニ特別ノ變化アリタル場合ハ、更ニ別個ノ考慮ヲ加フルモノトス
三、將來樹立サルヘキ獨立國ノ政治體制ト國名

樹立セラルヘキ獨立國ニ如何ナル政治體制ヲ執ラシムヘキヤハ、戰後教育ノ普及ト準備ノ進行ニ從ツテ、民衆ノ輿論自然ニ一定ノ方向ニ趨クヘント思考セラルルニ付、豫メ外部ヨリ之ヲ強ヒサルヲ得策トス
爪哇ヲ以テ國名トシ、「インドネシア」ナル名稱ハ之ヲ執ラス

四、軍政執行上措置スヘキ事項
イ、原住民ノ教育普及ニ一層ノ努力ヲ加フ、本項ニハ一般高等教育ヲ含ム

口、日本語普及ニ一層ノ拍車ヲ掛け、之ニ依リテ原住民

ニ我國ニ關スル知識ヲ普及ス

ハ、中央參議院及州參議會ニ於ケル議員ノ政治參與ヲ漸

次増進セシメ、政治的訓練ニ資セシム

ニ、唱歌「インドネンヤラジャ」ヲ許可ス

ホ、治安ニ支障ナキ限り現住民ノ希望スル旗幟使用ヲ許

可ス

ヘ、原住民高級官吏ヲ漸次增加ス

(付記二)

(昭一九、八、五 南政議案)

「インドネシア」獨立許與ニ關スル件

方針

戰局ノ現段階ニ即應シ戰爭指導ノ大局的見地ヨリ大東亞政策ヲ強力ニ展開シ併セテ原住民ノ人心ヲ強固ニ把握スル目的ヲ以テ「インドネシア」ニ對シ獨立許與ノ方針ヲ決定シ

速ニ其ノ趣旨ヲ宣言スルト共ニ「ジヤワ」其ノ他可能ナル地域ニ於テ漸次獨立ノ實ヲ具ヘシムル如ク措置ス

要領

一、原則ノ宣言

帝國ハ概ネ舊蘭領東印度ノ地域ニ對シ將來大東亞ノ一環タル强大ナル一獨立國ヲ設立セシムル方針ニシテ先ツ

「ジヤワ」其ノ他ノ地域ニ付テハ現行軍政下ニ於テ速ニ獨立政府ヲ樹立スル準備ヲ進捲ヲ計ル意嚮ナル旨可及的速ナル機會ニ宣明ス

二、當面獨立許與ノ範圍

「ジヤワ」(「マヅラ」及「バリ」ヲ含ム)ニ於テ中央參議院ヲ中心トシ獨立準備委員會ヲ組織セシメ其ノ意嚮ヲ聽取シツツ獨立ノ時期、形態、方法等ヲ決定ス

獨立宣言ノ時期ハ概ネ明年始トシ獨立宣言後一ヶ年間ニ逐次現軍政機構ヨリ獨立政府ノ形態ニ移行セシメ猶爾後當分ノ間我方ニ於テ其ノ政治ノ運用ヲ後見助成スルモノトシ且軍事經濟等ニ付テハ戰爭遂行ニ支障ナキ様適當ノ措置ヲ講ス

三、「ジヤワ」以外地域ノ地域ノ處置

概ネ舊蘭印全域ヲ獨立セシムルノ原則ヲ宣明スルモ「ジヤワ」以外ノ地域ハ當分ノ間現在通り軍政ヲ施行ス但戰爭中其ノ後ニ亘リ帝國ノ此等地域ニ於テ施行スヘキ行政

ハ哺育的管理的性質ノモノナルコトヲ明白ナラシム

(欄外記入)

一、大体ノ考方ハ賛成ナリ

二、獨立宣言後モ日本ノ「後見」ト言フ點ハ考慮ヲ容スヘン

保護關係ノ設定ヨリモ米比關係ノ如キ自治政府樹立ノ方ガ可

ナランカ

三、本案ノ取扱ハ最高戰爭指導會議ニ他ノ戰爭指導對策ト一括上

程ヲ可トス(編注)ヘン

四、南方委員會ニ至急附議ノ予定

(第一回)ヲ開催、結果概要左ノ通
一、大東亞省ヨリ別紙甲號同省案(予メ當方ニ連絡アリタリ)
ヲ提出セリ

二、右ニ對シ陸軍省ハ目下現地軍ノ意見問合中ニテ未タ成案

ナキモ主任者トシテハ別紙乙號ノ意見ヲ有スル旨披露セ
リ(「ジャバ」ノミニ先ツ獨立國ヲ作ルコトニ相當反対ノ

意向強シ)

三、海軍省ハ何等成案ナク氣持トシテハ海軍地域ニ關シハ

現狀ニ變更ヲ加フルコトニ反対ナリ尤モ聲明ハ既定方針

ナレハ致方ナシト言フ所ナリ

四、本官ヨリ外務省ノ大体ノ氣持ハ大東亞省案ニ近ク前記陸

軍案ニテハ畫龍點睛ヲ欠ク憾アリ即全東印度ニ對シ將來
獨立ヲ許與スル方針ノ闡明ト現軍政時代ニ於ケル政治參
與ノ強化ノ外、獨立準備ニ關シ一層具体的ノ實施計畫ヲ
定メ之ヲ公表實施スルコトハ絶對必要ト認ム右ハ行政府
ノ設立等ノ方法ヲ執リ現實ニ行政ノ混亂ヲ招來スルコト
ナクシテ行ヒ得ヘシ即先ツ「ジャバ」國ニ對シ獨立ヲ與
フルコトスルカ又ハ同地域ニ對シ高度自治政府ヲ設立
スルコト等ノ計畫之ナリ

(付記三)

東印度獨立施策ニ關スル件(中間報告)

十九、八、廿八

首題ノ件ニ關シ廿六日大東亞省ニ於テ陸海外主任者打合會

然シ乍ラ大東亞省案ノ如ク獨立後ニ於テモ保護關係ノ設

定ヲ必要トスル如キ獨立ナラハ却テ急カサル方カ宜シス

カル「獨立」ハ大東亞政策ニ反ス
トノ趣旨ヲ述フ

五、結局前記陸軍案及大東亞案並右ノ折衷案トモ言フヘキ小

官案ヲ更ニ相互ニ研究スルコト

本件聲明ハ臨時議會劈頭ノ總理演說ニ於テ爲スコト

從テ本件施策ハ至急決定ノ要アルコト

等ヲ申合セタリ

以上中間報告申進ス

甲號

「ジャワ」等ノ獨立ニ關スル件(案)(大東亞省案)

昭和十九、八、二五

一、方針

戰局ノ動向ニ對處シ大東亞諸國家諸民族ノ結集態勢ヲ更ニ
強化シ大東亞戰爭完遂ニ資スル爲將來「インドネシア」ヲ
獨立セシムルコトシ先ツ成ルベク速ニ「ジャワ」國ノ獨
立ヲ實現スル帝國政府ノ方針ヲ闡明ス

三、要領

(一)萬邦ヲシテ其ノ所ヲ得セシムルノ我ガ不動ノ國是ニ則リ
帝國政府ハ將來「インドネシア」ヲ獨立セシムル意嚮ナ
ル旨並ニ之カ第一歩トシテ先ツ成ルベク速ニ「ジャワ」

ノ獨立ヲ許容スル方針ナル旨ノ聲明ヲ發出ス

(二)聲明發出ノ時機ハ臨時議會ノ際ヲ豫定ス

(三)獨立ノ時期ハ差當リ之ヲ明言セス戰局ノ推移、獨立準備
ノ進捗狀況等ト睨合セ決定スルコトトスルモ遲クモ明年
中ニハ之ヲ獨立セシムル如ク措置ス

(四)「インドネシア」ハ將來終局ニ於テ獨立ノ聯邦組織タラ
シムルコトヲ豫想ス其ノ地域的範圍ハ概々舊蘭領東印度
ノ地域ヲ又先ツ獨立セシムベキ「ジャワ」國ノ領域ハ
「ジャワ」(「マヅラ」ヲ含ム)ト豫定スルモ差當リ之ヲ公
表セス

(欄外記入一)

(五)政府聲明發出後成ル可ク速ニ「ジャワ」獨立準備委員會
ヲ結成シ新「ジャワ」國ノ政體等ニ關スル意見ヲ表明セ
シメ漸次必要ナル準備ヲ爲サシム
(六)「ジャワ」ニ於テハ獨立ニ至ル間漸次原住民ノ政治參與
ヲ強化シ(參議院ノ強化、原住民高級官吏ノ增加等)政治

的訓練ニ資セシム

「インドネシア」歌及旗幟ノ使用ヲ許可ス

(七) 「ジャワ」以外ノ地域ニ付テハ差當リ軍政ノ現状ハ之ヲ
變更セサルモ軍政ノ補育的使命ヲ趣旨トシ逐次原住民ノ

政治參與ヲ許容シテ政治的訓練ノ向上ヲ計ルモノトス

3 獨立ノ形態及帝國トノ關係ハ別ニ定ム
但シ帝國ニ於テ十分掌握シ得ル如ク措置スルト共ニ其
ノ程度ハ東印度内各地域ノ特性ニ應シ差異アラシムル
ヲ勘案シ別ニ定ムルモ過早ナル獨立實施ハ之ヲ避ク
コトアルヲ考慮ス

乙號

東印度獨立施策ニ關スル件

昭和一九、八、二六

陸軍省主務者案

一、方針

大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ建設スル爲東印度ヲ獨立セ
シム

二、要領

1 將來東印度ハ之ヲ獨立セシムヘキ旨成ルヘク速ニ内外

ニ聲明ス

2 東印度ノ領域ハ別ニ決定スルモ差當リ「ジャワ」「ス

マトラ」、南「ボルネオ」、「セレベス」及其ノ附屬島

嶼ト豫定ス

以上

ロ、成ルヘク速ニ東印度各地ノ原住民(華僑ヲ含ム)有
力者ヲ以テ組識(職力)スル東印度制度調査委員會ヲ「ジャ
ワ」ニ設ケ在「ジャワ」陸軍最高指揮官指導監督ノ
下ニ獨立ニ必要ナル事項ノ調査研究ニ任ゼシム
ハ、從來禁止シアル「インドネシア」歌及「インドネ
シア」旗ノ使用ヲ許容ス

ニ、昭和十八年六月二十六日決定ノ趣旨ニ從ヒ原住民
政治參與ノ措置ノ強化擴大ヲ圖ル

四 占領地への独立付与問題

(欄外記入)

(欄外記入一)

此ノ點ハ將來ニ讓ルコト可ナリ

(欄外記入二)

本案ニテハ全地域獨立ノ予約アルモ戰爭中ハ軍政下ニ於ケル政治參與ノ若干強化アルノミニテ不充分ナリ

矢張リ獨立準備ニ關シ今一步踏込ミタル既成事實ノ作製ヲ必要

トス

(付記四)

東印度獨立施策ニ關スル件

昭和一九、八、二九

(南政第二案)

一、方針

大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ建設スル爲東印度ヲ獨立セシム

二、要領

1、將來「インドネシア」ハ之ヲ獨立セシムヘキ旨成ル
ヘク速ニ内外ニ聲明ス
2、東印度ノ領域ハ別ニ決定スルモ差當リ「ジャワ」、

「スマトラ」、南「ボルネオ」、「セレベス」及其ノ附屬島嶼ト豫定ス

3、獨立ノ形態及帝國トノ關係ハ別ニ定ム

但シ資源其他ニ關スル帝國國防上ノ絕對ノ要請ニ十分留意スルト共ニ其ノ程度ハ東印度内各地域ノ特性ニ應シ差異アラシムルコトアルヲ考慮ス

4、獨立ノ時機ハ戰局ノ推移、原住民政治力向上ノ狀況等ヲ勘案シ別ニ定ム

5、現地ニ於ケル獨立準備ハ差當リ左記ニ準據シテ實施ス獨立準備ニ當リ住民ノ創意ヲ尊重シ民心ノ把握ニ努ムルモ戰爭遂行ニ支障ヲ來サシメサル如ク措置ス
イ、帝國政府ノ聲明ニ即應シ各地域ノ最高指揮官ハ速ニ之カ趣旨ノ徹底ヲ圖ル

ロ、軍政ノ現狀ハ急激ナル變化ヲ避ケルモ軍政ハ哺育的使命ヲ趣旨トシ各地ノ特性ニ應シ住民ノ政治參與ヲ更ニ強化擴大シ其ノ政治的訓練ニ資スルモノトスハ、成ルヘク速ニ東印度各地住民ノ有力者ヲ以テ組織スル東印度獨立準備委員會ヲ「ジャワ」ニ設ケ在「ジャワ」陸軍最高指揮官指導監督ノ下ニ差當リ獨

立ニ必要ナル事項ノ調査研究ニ任セシム

ニ、從來禁止シアル「インドネシア」歌及「インドネ
シヤ」旗ノ使用ヲ許容ス

(欄外記入)

重光大臣ハ此ノ程度ニテモ差支ナキ御意図ノ由ナリ

海軍ハ全面的ニ未タ留保

本案ハ大体陸軍案ニ近シ

十九、八、三十、主務者會議

(付記五)

東印度獨立施策ニ關スル件

昭和一九、九、二

(關係省主務者案)

一方針

將來東印度ヲ獨立セシムル旨ヲ聲明シ以テ民心把握ニ資

スルト共ニ大東亞政策ヲ中外ニ闡明ス

二、要領

1、將來東印度ヲ獨立セシムベキ旨臨時議會ニ於テ聲明

ス

2、獨立セシムベキ地域ハ舊蘭領印度(「ニューギニア」
ヲ除ク)ト豫定ス(海軍、留保)

3、獨立ノ形態及帝國トノ關係ハ別ニ定ム

但シ帝國ノ要請ヲ十分達成スル如ク措置ス

4、獨立ノ時機ハ住民ノ政治能力向上ノ狀況等ヲ勘案シ

別ニ定ムルモ過早ナル獨立實施ハ之ヲ避ク

尙全地域ヲ同時ニ獨立セシムベキヤ逐次獨立セシムベ

キヤハ當時ノ狀況ニ依リ之ヲ定ム

5、「ジャワ」ニ於テハ住民ノ創意ヲ尊重シツツ左記ニ
準據シテ措置ス

イ、帝國政府ノ聲明ニ即應シ速ニ之カ趣旨ノ徹底ヲ圖

ル

ロ、軍政ノ現狀ハ急激ナル變化ヲ避クルモ住民ノ政治

參與ヲ更ニ強化擴大シ且ツ其ノ政治的訓練ヲ行フ

ハ、成ルヘク速ニ現地住民ノ行フ獨立ニ必要ナル事項

ノ調査研究ヲ認ム

二、從來禁止シアル「インドネシア」歌及「インドネ
シヤ」旗ノ使用ヲ許容ス

シヤ」旗ノ使用ヲ許容ス

6、他ノ各地域ハ其ノ實情ニ即應シ爲シ得ル限リ前項ニ
準シタル措置ヲ採ルモノトス(海軍、留保)

(欄外記入)

海軍留保ノ爲決定ニ至ラス

(付記六)

東印度獨立問題ニ關スル件

(最高戦争指導會議記録)

九月二日幹事補佐ニ於テ取纏メタル案(一部海軍留保)ニ付

九月四日午前幹事ノ會合ニ於テ更ニ審議ノ筈ナリシ處右幹事會ニハ上程セス同日最高戦争指導會議構成員會合ニ於テ懇談スルコトトナリ

テハ合意ヲ見タリ

ヲ少クモ「ジヤワ」及「スマトラ」ニ付實施スルコトニ付

置ニ支障ヲ來ス虞アリトノ意見ニシテ六日最高戦争指導會議ニ於テ陸軍側幹事(佐藤軍務局長)ヨリ右ノ趣旨ヲ述べ陸軍側トシテハ「スマトラ」ニ於テモ歌及旗ノ使用許可等ノ措置ハ講ズルコトトスベキ旨了解ヲ求メ重光外務大臣兼大東亞大臣ヨリ蘭印全域ニ付其ノ程度ノ措置ハ執リテ差支ナカルベキ旨ヲ述べラレ別段發言スル者モナク結局別段文書ヲ以テ決定ハ見ザリシモ大體ニ於テ幹事補佐案ノ如キ措置ヲ少クモ「ジヤワ」及「スマトラ」ニ付實施スルコトニ付

806 昭和二十年七月十七日 最高戦争指導會議決定

〔東印度獨立措置ニ關スル件〕

付記一 昭和二十年七月十七日、最高戦争指導會議用資料

右決定に関する外務大臣説明

四 占領地への独立付与問題
研究ヲ續ケシムルコトトシ(從テ前記ノ案ニ付テハ更ニ
定ヲナサズ)唯議會ニ於テ聲明ヲナスコトニ詰合ヲ見タリ
然ルニ陸軍側ニ於テ斯クテハ聲明ヲ發スルト同時ニ「ジャ
ワ」ニ於テハ何ヲ爲スベキヤ「スマトラ」ニ於テモ何等カ
ノ獨立準備ヲ爲シテ差支ナキヤ否ヤ等モ判明セズ實際ノ處

〔東印度獨立施策ニ關スル件〕

二 昭和二十年一月四日付、大東亜省南方事務局
政務課作成

三 昭和二十年二月二十日付、政務局第一課作成

「マライ」ノ獨立ノ可能性ニ就テ

四 作成日、作成局課不明

「第二次世界大戦中ニ於ケル東印度ノ統治及歸屬決定ニ關スル經緯」

東印度獨立措置ニ關スル件

第一、方針

大東亞戰爭完遂ニ資スル爲帝國ハ可及的速カニ東印度ノ獨

立ヲ容認ス

之ガ爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス

第二、要領

一、獨立セシムベキ地域ハ舊蘭領東印度トス

二、全地域ニ亘リ獨立準備ヲ推進シ主要地域ノ準備完了次第

全地域ニ亘リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシム但シ準備完了セザル地域ノ施政ニ關シテハ準備進捗ノ状況ニ應ジ逐次之

ヲ新國家ノ管轄ニ移行セシムル如ク措置ス

之ガ爲速カニ「ジャワ」ニ獨立準備委員會ヲ組織シテ獨立實施ニ必要ナル諸般ノ事項ヲ準備セシム

三、獨立ノ豫定時期ハ成ル可ク速ニ之ヲ概定シ新國家ノ領域

タルベキ地域ト共ニ獨立準備委員會ヨリ之ヲ發表ス

四、新獨立國ノ國體、政體、國名、國民ノ範圍等ニ關シテハ民意ニ依リ之ヲ定ム

五、獨立ニ關スル施策ヲ通ジ住民ノ民族意識ノ昂揚ニ努メ且戰爭遂行ニ寄與セシムルヲ主眼トシ作戰、戰備上ノ支障

ハ極力之ヲ防止スル如ク措置ス

六、本施策ノ現地ニ於ケル實行ハ一切之ヲ現地軍ニ一任ス

(付記一)

「東印度獨立措置ニ關スル件」外務大臣說明資料

昭和二十年七月十七日

一、東印度ニ於テハ蘭領時代ヨリ熾烈ナル獨立運動アリ、「インドネシア」人ノ爲ノ「インドネシア」ハ彼等獨立運動者ノ熱烈ナル要望ナル處、大東亞戰爭勃發シ我軍ノ東印度戡定成ルヤ之等先覺者ハ何レモ獨立ノ好機至レリトノ期待ノ下ニ我方ニ全面的協力ヲ爲シ、或ハ中央參議院議員トシテ、或ハ各洲地方機關ノ官吏又ハ議員トシテ、活動シ其ノ成果見ル可キモノアリ、他面一昨年十一月大東亞共同宣言ノ發出アリ、大東亞各國ノ自主獨立ヲ尊重

スル帝國ノ大方針宣明セラレ、同時ニ「ビルマ」「フィリピン」ノ獨立、自由印度假政府ノ成立アルヤ、東印度ニ於テモ獨立運動者ノ希望ハ一層促進セラレタル次第ナルカ、帝國トシテモ大東亞宣言ノ趣旨ヲ貫徹シ、又東印度住民ノ我方ニ對スル協力ト期待ニ報ユル爲メニモ、東印度ノ獨立問題ニ關シ何等カノ意思表示ヲ爲スコト適當ト思料セラルルニ至レリ。依テ前内閣ニ於テハ客年九月五日最高戰爭指導會議ニ付議シタル上、九月七日第八十五臨時議會ノ施政演說ニ於テ小磯前總理ヨリ、「帝國ハ東印度民族永久ノ福祉ヲ確保スル爲メニ將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨聲明シ、以テ本問題ニ對スル帝國ノ意圖ヲ明白ナラシメタリ。尤モ九月五日ノ最高戰爭指導會議ニ於テハ右趣旨ノ聲明ヲ議會ニ於テ爲スコトヲ決定セルノミニシテ、獨立ヲ許容スヘキ地域ニ關シテハ「ジャワ」及「スマトラ」ニ付テハ問題ナキモ爾餘ノ地域ニ付テハ明白ナル決定ヲ見ス、唯從來禁止シ居リタル「インドネシア」歌及「インドネシア」旗ノ使用ヲ許可シ、又住民ノ政治參與ヲ強化擴大シ、現地住民ヲシテ獨立ニ必要ナル事項ノ調査研究ヲ爲サシムルコトトナレ

リ。

三、右帝國政府ノ聲明ニ呼應シ、「ジャワ」ニ於テハ獨立調查委員會設立セラレ、「スマトラ」「セレベス」等ノ地域ニ於テモ現地住民政治參與強化ノ措置カ執ラレ、所要ノ準備進捗中ナルカ、客年九月七日ノ聲明ニハ唯「將來其ノ獨立ヲ認メントスルモノナル」旨述ヘアルノミニテ其ノ時期ハ明示シアラサル處、獨立ヲ約束シ乍ラ之カ實現ヲ長ク不安定ノ儘放置スルコトハ帝國ノ誠意ニ付疑惑ヲ起サンムルノ虞ナシトセス、殊ニ敵ノ反攻カ既ニ東印度ノ一角ニ及ヒツツアル今日現地住民ノ對日協力ヲ愈々積極化スル必要ヨリ云フモ、此ノ際客年ノ聲明ヲ更ニ具体化シ、獨立ノ時期ヲ明定シ之ヲ中外ニ發表シ、以テ大東亞自主完整ニ對スル帝國ノ眞摯ナル意圖ヲ宣明スルノ要アリ、絃上ノ見地ヨリ今回別案ノ如キ決定ヲ爲サントスル次第ナリ。

三、次ニ決定案ニ付若干説明スヘシ。

(一)要領一、ニ付、

東印度ノ民度ハ各地域ニ依リ一様ナラズ、最モ民度高ク實質上モ獨立ノ資格ヲ具備スルハ勿論「ジャワ」ニ

シテ爾餘ノ地域ハ必スシモ直ニ獨立ノ資格ヲ有スルト
ハ認メ得サルモノアリ、從テ此ノ際先ツ「ジャワ」ノ
ミニ獨立ヲ許容シ爾他ノ地域ハ更ニ其ノ實質ノ完備ヲ
俟チテ獨立セシムヘシトノ論モアリ得ヘキ處、從來東
印度ノ獨立ヲ首唱シ來レル所謂獨立運動者ハ常ニ蘭領
東印度ヲ一体トシテ考へ居リ之ヲ「一体トシテ獨立セシ
メント要望シツツアルモノニシテ、此ノ際「ジャワ」
ノミヲ切離シテ獨立セシムルコトハ彼等ヲ失望セシメ
切角ノ效果ヲ半減スルノミナラス或ハ帝國カ爾餘ノ地
域ニ付何等カ野心アルニ非スヤトノ疑念ヲ生セシムル
ノ惧ナシトセス、依テ此ノ際獨立セシムヘキ地域ハ舊
蘭印全部ナル旨ヲ明ニスルヲ可トスル次第ナリ。又本
項ハ獨立セシムヘキ地域ハ舊蘭印ニシテ英領「マライ」
及北「ボルネオ」ヲ含マサルコトヲ意味スルモノナル
處、之等地域ハ地理的ニハ舊蘭印ト近接スルモ從來ノ
歴史的傳統ニ於テハ全然別個ノ存在タリシモノニシテ
之ヲ舊蘭印ト一括シテ獨立セシムルコトハ不適當且不
必要ナリト思考シテ之ヲ除外セル次第ナリ。

(二)要領三、ニ付、

第一項ハ主要地域即チ「ジャワ」「スマトラ」等ノ獨
立準備完了セル際ハ獨立セシムヘキ地域トシテ定メラ
レタル舊蘭印全地域ニ亘リ新國家ノ獨立ヲ宣言セシム
ルコトヲ意味スルモノナリ。或ハ準備完了セル地域ヨ
リ先ツ獨立セシメ、爾他ノ地域ニ付テハ其ノ準備完了
スルヲ俟テ逐次之ヲ新國家ニ參加セシムル方法モ考へ
得ヘキモ、右ノ如キ方法ハ前述舊蘭印全部ヲ「一体トシ
テ考フル所謂「インドネシア」獨立運動者ノ誤解ヲ招
ク虞アルノミナラス、爾他ノ地域ヲ準備完了次第新國
家ニ編入スル際ノ法理的説明ニモ困難アリ、寧ロ主要
地域ノ準備完了次第全地域ニ亘ツテ一齊ニ獨立宣言ヲ
爲サシムルヲ適當ト考フル次第ナリ。而シテ未タ準備
完了セサル地域ニ付テハ一應之ヲ新國家ノ領域トスル
モ、依然我方ノ軍政ヲ繼續シ、準備完了ヲ俟テ逐次之
ヲ新國家ニ移管セントスル次第ナリ(第二項)。

第三項ニ所謂獨立準備委員會ハ全地域ニ亘ル獨立準備
ノタメノ委員會ナルモ新國家ノ中心ハ結局「ジャワ」
ニシテ、又現在準備進捗狀況モ「ジャワ」カ最モ進ミ
居ルヲ以テ、便宜上獨立準備委員會ハ之ヲ「ジャワ」

四 占領地への独立付与問題

ニ設ケントスルモノナリ。勿論「ジャワ」以外ノ地域ニ於テモ右獨立準備委員會ノ準備進捗狀況ニ呼應シテ獨立準備ヲ促進スヘキコトハ當然ナリ。又「ジャワ」ニ設立セラルヘキ獨立準備委員會ハ全地域ノ獨立ヲ準備スルモノナルヲ以テ當然各地域ヨリノ代表者ノ參加ヲ豫想スルモノナル處、或ハ現下ノ交通狀況ヨリシテ東印度各地ヨリ代表者ヲ「ジャワ」ニ派遣スルコトハ困難ナリトモ思考セラル處、右ノ如キ場合ニ於テハ「ジャワ」ニハ東印度各地ノ代表の人物居住スルヲ以テ之等ヲシテ代理セシムルコトヲ考慮シ得ヘシ。

(三)要領三、ニ付、

新國家獨立ノ時期ハ方針ニモ明示シアル通り可及的之ヲ速カナラシメ度キ所存ニシテ現地ニ於ケル準備ノ都合ハアルヘキモ戰局ノ狀況竝ニ國際情勢ニ鑑ミ遲クモ今年秋ニハ實現セシムル必要アリト認メ居レリ。而レトモ急速度ニ展開スル國際政局ニ對處スル爲ニハ獨立ノ豫定時期ヲ速ニ概定シ新國家ノ領域タルヘキ地域ト共ニ之ヲ發表スルコト適當ニシテ尙本件發表ヲ我方ニ於テ之ヲ爲サス、獨立準備委員會ヲシテ爲サシムルコト

トトセル趣旨ハ本件新國家ノ獨立カ我方ノ指導乃至示唆ニ基クモノトノ形ヲ執ラス飽ク迄モ東印度民族ノ自發的發意ニ基クモノナリトノ自然發生的形ヲ取ラシムルヲ適當トスルニ出ツルモノナリ。

(四)要領四、ニ付、

本項モ前項ト同シク新國家ノ獨立ヲ東印度民族ノ自發的發意ニ基クモノトスル趣旨ニ出ツルモノニシテ「民意ニ依リ之ヲ定ム」トハ具体的ニハ獨立準備委員會ヲシテ之ヲ決定セシムルコトニ依リ達セラルモノト考ヘ居レリ

(付記二)

東印度獨立施策ニ關スル件

(昭和二〇、一、四 南政試案)

一方 针

「ジャワ」「スマトラ」ニ於ケル獨立施策ヲ強化シ住民ノ民心把握ヲ計リ以テ大東亜政策ノ完遂ニ資ス

二、要 領

(1)「ジャワ」ニ獨立準備委員會ヲ設置^(マタ)ケ在「ジャワ」陸

軍最高指揮官監督ノ下ニ努メテ委員ノ創意ヲ尊重シツ

ツ差當リ獨立ニ必要ナル事項ノ調査研究ニ任セシム

(2)前項ノ委員會ハ「ジャワ」及「スマトラ」住民(華僑ヲ含ム)ノ有力者ノ外「セレベス」「ボルネオ」原住民

ニシテ「ジャワ」ニ在ルモノヲ參加セシムルヲ妨ケス

(3)獨立セシムヘキ地域ハ前記委員會ノ調査研究ヲ待テ決定ス委員會ニ於テハ其ノ希望ニ依リ舊蘭領印度(ニユーギニア)ヲ除ク)トスルノ豫想ヲ以テ調査研究ヲ爲

スヲ妨ケサルモ差當リ「ジャワ」「スマトラ」以外ニ於テハ住民ノ政治參與等既定ノ方針以外ニ獨立ノ爲ノ施策ヲ促進スルコトナシ

(4)獨立ノ時期ハ住民ノ政治能力向上ノ状況、其ノ希望等ヲ勘案シテ別ニ定ム

先ツ「ジャワ」ヲ獨立セシムルコトアリ
國名、國家ノ形態、國民ノ範圍等ハ主トシテ委員會ノ

調査、研究ノ結果ニ依ル

(6)新國家ハ大東亞共榮圈ノ一環トシテ帝國ト緊密不可分ノ關係ヲ保持シ且帝國トノ同盟條約ニ依リ戦争遂行ニ必要ナル措置其ノ他ノ帝國ノ要請ヲ達成スル如ク措置

ス

但日本人力新國家ノ國民タルコトヲ豫想セス

(付記三)

(昭和二〇、二六、二〇 政二)

「マライ」ノ獨立ノ可能性ニ就テ

一、「マライ」ヲ獨立セシメントスル考ヘニハ左記ノ如キ困難アリ

(一)「マライ」人人口ノ比較的多數ナリシ四州ヲ「タイ」ニ割讓セル結果現在ニ於テハ「マライ」人口ハ「マライ」人三四%華僑四八%其他(印度人等)一八%ナルコト

ト從テ「マライ」人中心ノ獨立國ヲ形成シ難キコト
(二)「マライ」人カ右ノ如ク數的ニモ劣勢ナルノミナラス民族的氣迫モ缺シク曾テ獨立運動發生シタルコトナキコト從テ「ビルマ」「ジャワ」等ニ於ケルカ如キ從前ノ獨立運動者中心ノ獨立國ヲ作り難キコト

(三)「マライ」各州ノ土侯ハ從來ヨリ殆ト政治ノ實權ヲ有セス且必シモ「マライ」人力土侯ヲ中心トシテ州單位ニ團結シ居ルモノニハ非サルコト從テ安南等ノ如ク

既存王朝ヲ獨立セシムル形態ヲ採リ難キコト

四「マライ」人ハ所謂「インドネシア」族ト人種的ニモ
區別セラレ且「ジャワ」等ニ於ケル「インドネシア」

獨立運動カ「マライ」ハ「インドネシア」ノ一部トハ
考ヘ居ラサルコト從テ「インドネシア」ヲ聯邦形態ニ
テ獨立セシムルモ「マライ」ヲ其ノ一邦トハ爲シ難キ

コト

二、右ノ如キ各般ノ困難ニ拘ラス強ヒテ「マライ」ヲ獨立セ
シメントセハ左記何レカノ案ヲ採ル外ナシ

(一)既ニ割讓セル四州以外更ニ「ペナン」「ウェ尔斯レー」

「ペラ」等ヲ「タイ」ニ歸屬セシメ(最近ノ「タイ」)

ハ必スシモ之ヲ欲セサルモ)殘部ハ「マライ」人及華

僑ノ共同行政ノ自地域トスル案

(獨立國ノ態ヲ爲ササル感アリ)

(二)各土侯ヲ獨立セシメ土侯國聯合ヲ結成セシムル案

(土侯ノ能力疑問ニシテ且華僑ノ實勢力ヲ全然無視ス
ル感アリ)

(三)「インドネシア」聯邦ノ一部トスル案

(人種的歷史的ニ見テ相當不自然ナル缺點アリ)

尙私見トシテハ「マライ」ノ獨立ハ右ノ如ク何レノ案ニ
依ルモ相當困難性アルヲ以テ差當リ政策上ノ狙ヒヲ達成
スル爲ニハ大東亞全体ノ委任統治ノ如キ方法ヲ研究スル
ヲ可ナリト思考ス即チ

(一)右委任統治ハ聯盟A式委任統治ノ如ク「マライ」ヲ獨
立國トシテ假承認シ之ヲ一定期間(例へハ十五年)以内

ニ獨立セシムル目的ヲ以テ受任國ハ施政上ノ助言及援
助ヲ與フルモタルコト

(二)大東亞諸國カ全体トシテ右ノ如キ將來ノ獨立ヲ保證シ
特ニ關係深キ「タイ」中國等ノ委員ヨリ成ル委員會ヲ
以テ受任者トスルコト

可然ト思考ス

(付記四)

一、第二次世界大戰中ニ於ケル東印度ノ統治及歸屬決定ニ
關スル經緯

ロアリタルモ外務省ハ當初ヨリ蘭印獨立ヲ重要視セリ蘭
印

印上陸作戦開始直前南方軍司令部ハ作戦及占領後ノ施政ヲ容易ナラシメンガ爲「サイゴン」及「バンコック」ノ「ラジオ」ヲ利用シ「インドネシア」民族自立ノ宣傳ヲ行ヒタルガ同時期ニ於テ、和蘭ハ流刑中ナリシ「インドネシア」民族運動指導者「スカル^(スカル)」及「ハツタ」ノ兩氏ヲ「ジャバ」ヘ送還シ右ニ對シテ「インドネシア」國民軍ヲ組織シテ日本軍ニ抵抗スヘキコトヲ懲憲シ其代償トシテ東印度地域ニ獨立ヲ許容スヘシトナシタルモ兩氏ハ之ヲ拒絶セル經緯アリタルモノノ如シ日本軍ノ蘭印占領後現地軍當局ハ後ニ獨立聲明ノ行ハレタル「ビルマ」「フイリピン」ニ於ケルト同様之等民族主義者ヲ先頭ニ立テ「ジャワ」奉公會其他現住民ノ對日協力組織ヲ設立セシムルト共ニ民族主義的傾向ヲ強化スルカ如キ方向へ施政ヲ押進スルトコロアリタルガ當事「シンガポール」ニ在リタル南方軍總司令部ハ逆ニ之ニ抑壓セントスルノ方針ヲ持シ中央ニ於テモ亦戰爭遂行ノ爲ノ資源獲得ニハ之ヲ直轄領トシテ徹底セル政策ヲ採用スルノ外ナク獨立許容等ノ民族解放政策ハ之ヲ阻害スヘシトノ理由ニテ統帥部ハ東印度獨立ニ强硬ナル反対ヲ主張セリ其結果昭和

十八年一月四日大本營政府連絡會議決定占領地歸屬腹案ハ「ビルマ」「フイリピン」ノミノ獨立ヲ規定シ其他ニ關シテハ追テ定ムトナシタルガ次テ同年五月三十一日御前會議決定ハ東印度地域ヲ帝國領土ヘ編入スヘキコトヲ決定シ現住民ノ民度ニ應シ政治參與ヲ認ムルカ如キ方策ヲ取ルト共ニ聯合國側宣傳ニ乘セラレザル様本歸屬決定ヲ發表セザル事トセリ。本決定ニ際シ東條總理大臣ハ寧口獨立論ニ傾キ居リ外務省又獨立案ヲ主張セルガ統帥部ハ前述ノ如ク强硬ナル反對論ヲ持シ又一部ニハ一度獨立ヲ許容セバ帝國トシテハ信義トシテ敢ク迄之ヲ尊重セザルヲ得ズ將來交渉平和等考慮サル場合困難ナル地位ニ立ツヘキヲ以テ現狀ノ儘ヲ可トスヘシトノ見解モアリテ遂ニ領土編入ノ決定ヲ見タル次第ナリ

二、本決定ニ對シ現地軍當局ハ頗ル不満ナリシモ積極的ニ反對意見ヲ具申スルニ至ラズ又大東亞會議直後來訪セル「セカル^(スカル)」氏ハ東條總理大臣ニ對シ東印度地域ニ對スル獨立許容ヲ懇請セルモ東條總理大臣ハ何等確答ヲ與フルコトナクシテ會見ヲ終リタルヲ以テ「スカルノ」氏ハ多大ノ失望ヲ抱^(抱)キ「ジャバ」ヘ歸還セリ其後「ジャバ」

軍政最高顧問タリン林司政長官ハ現地軍最高指揮官トノ諒解ノ下ニ上京シ東印度獨立論ヲ持シテ關係方面ノ說得ニ努ムルトコロアリ重光外務大臣ハ之ヲ支持シテ前記決定變更ノ努力ヲナシタルガ小磯内閣成立ト共ニ東印度獨立論ハ漸有力化スルニ至レリ

即小磯内閣最初ノ戰爭指導會議ニ於テ「今後採ルヘキ戰爭指導ノ方策」中ノ一項ニ於テ次期議會ニ於テ東印度獨立ニ關スル聲明ヲナスコトニ決定ヲ見ルカ其ノ經緯ヲ見ルニ當時太平洋正面ニ於テハ「マリヤナ」ノ防禦線崩壊シテ米國ノ攻勢急速化シツアリタル際ニシテ新内閣トシテハ大東亞結集上何等力新ナル政略上ノ手ヲ打タサルヲ得ザル情勢ニアリタル次第ニシテ外務省カ獨立論ヲ主張セルハ云フ迄モナキトコロナルガ陸軍中央モ亦陸軍軍政地域タリシ「ジャワ」「スマトラ」ニ於ケル民族意識ノ昂揚著シキモノアリ獨立問題ヲ不明確ナル情態ニ放置シツツ原住民ノ協力ヲ確保スルコト漸時困難トナリ居ルヲ以テ現地軍當局ノ要請ヲ容レ獨立論ニ贊意ヲ表スルニ至レリ。然レ共海軍側ハ依然トシテ强硬ナル反對意見ヲ持シ獨立施策ノ押進ニ對シ海軍軍政地域ニ關スル限り全

面的留保ヲナシタルヲ以テ(附屬一)單ニ議會ニ於テ小磯内閣總理大臣ヨリ將來東印度地域ノ獨立ニ關シ支援ヲナスヘキ旨ノ聲明行ハレタルニ止リ(附屬二)獨立ニ關スル何等具體的方策ノ決定ヲ見ルニ至ラス

三、其後戰局ハ更ニ惡化シ南方地域トノ海上交通ハ事實上杜情態トナリタルヲ以テ現地ニ於ケル軍自活ノ爲ノ經濟的 requirementハ増大シ「ジャバ」「スマトラ」ニ於テハ抽象的ナル獨立聲明ノミヲ以テシテハ原住民ノ人心把握ハ著シク困難トナレリ現地軍當局ハ曩ニ原住民政治參與ノ方針ニ基キ「ジャバ」ニ中央參議院ヲ設置セルモ右ハ單ナル施政ニ對スル諮詢機關タルニ過キザリシヲ以テ獨立準備ノ爲ノ具體的方策ノ決定ハ焦眉ノ問題トナレリ他方海軍側モ「フイリピン」失陷後ハ南方放棄ハ既ニ現實化シ來リタルヲ以テ從來ノ反對論ヲ固持スルノ理由ヲ喪失シ昭和二十年初頭ヨリ東印度獨立問題ニ關スル外陸海ノ主張ハ漸次統一セラルニ至レリ依テ三省關係官ノ間ニ付次ノ討議ヲ經タル結果七月十七日最高指導會議ニ於テ「帝國ハ可及的速カニ東印度ノ獨立ヲ容認ス之力爲直チニ獨立準備ヲ促進強化スルモノトス」トノ決定ヲ見

タルモ(附屬二)^(省略)及(附屬四)^(省略)其後一ヶ月弱ニシテ帝國ノ降伏トナリタルヲ以テ之力實施ヲ見スシテ終レリ